

独立住宅居住者の住宅選択行動に関する研究
(第1報) 岐阜県都市部居住者の住宅選択プロセス

○渥美 正子* 新田 米子** (*愛知淑徳大 **岐阜聖徳学園大短大)

目的 住宅の地方性が薄れ、全国的な画一化(プレハブ化、洋風化)が進行している。東海3県では伝統的工法をとる割合や国産材の使用率が高いものの、1995年以降プレハブのシェアは高まり全国平均を大幅に上回っている。こうした現状をふまえ、本研究では地方独立住宅居住者の住宅選択行動及び住志向を明らかにすることを目的とする。今回はこれらの規定要因を探る一つの試みとして、ライフスタイルをとりあげた。第1報では現住宅を選択するにあたってのプロセス及びその規定要因について明らかにする。

方法 岐阜県の一戸建の新興住宅団地を対象に1998年3月にアンケート調査を実施した。有効回収数は237票である。本報では89年以降の新築住宅居住者155票を対象とした。

結果 1)住宅工法では入手前に木造在来軸組工法、プレハブを志向していた層は現状においても各々7割、9割が同一の工法を選択しているが、工法にこだわらなかった層の6割はプレハブを選択し木造は2割弱である。2)こだわらずにプレハブを選択した層は若年層ほど多く、30代・40代の5割を占める。居住歴による差がみられ都市出身者に高率である。3)数量化3類によりライフスタイルのパターン化を試みたところ<洋風自然志向><和風自然志向><和風利便志向><洋風利便志向>の4つに分類できた。4)住宅選択行動スタイルが「木造こだわり」タイプの層は<和風自然志向>が相対的に多く3割を占め、現住宅決定までの住情報では知人の話へのウェイトが高く、決定までの期間も長い。5)「プレハブこだわり」「こだわりなしプレハブ」タイプの層は洋風志向が7割を占めるが、前者は住まいづくりへの関心が高いのに対して、後者は簡便に住宅を得ようとする傾向が認められた。